



地域子育てネットワークだより

平成29年4月号

発行／兵庫県子育て応援ネット推進協議会事務局

〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 兵庫県企画県民部男女家庭課 電話:(078)341-7711 内線 2875

E-MAIL: danjokatei@pref.hyogo.lg.jp

http://web.pref.hyogo.lg.jp/kk17/network-dayori.html

子育て応援ネット全県大会を開催



地域ぐるみで子育て家庭への支援を推進する「子育て応援ネット」の全県大会が2月14日、約400名が参加し、兵庫県公館で開催されました。みすまる保育園の園児による素晴らしい斉唱で開幕し、子育て応援ネット推進母体による活動事例発表と「地域で子どもを見守る～見逃さない、見て見ぬふりをしない～」をテーマに兵庫教育大学大学院教授・岩井圭司氏（精神科医）による講演が行われました。

子育て応援ネットは、今後も地域住民が子育て家庭をいかに守っていくかを目標に活動していきます。



挨拶

兵庫県地域女性団体ネットワーク会議 会長 北野 美智子



平成9年、兵庫県において、子どもが被害となった痛ましい事件が起きたのを機に、各地域で自主的に子どもの見守り、また、子どもを持つ家庭の応援を始め、全県をあげて、これに取り組もうと、このネットワークが立ち上がりました。

今では、全国でも当たり前になってきていますが、当初、同じような活動を行っている都道府県は少なく、兵庫県は教育、子育て支援のまさに先進地であったわけです。

現在では、60代はもちろん、80代も、できることで地域に、そして後の世代の人のために、毎日を過ごさなければいけないと思っています。

皆様方も、地域で頑張ってください。そして子育て家庭の応援をお願い致します。

講演

「地域で子どもを見守る～見逃さない、見て見ぬふりをしない～」

兵庫教育大学大学院 教授 岩井 圭司（精神科医）

全国の子ども虐待がどれくらい通報されているかという、平成2年度で約1,100件、今は、10万件を超えています。四半世紀で100倍に増えました。こんなに増えているわけがありません。これまで見過ごされてきたのが発見され、児童相談所や警察に通報されるようになったということです。まだまだ見つかっていない虐待があって、誰からも気付かれずに辛い思いをしている子が多いということが言えると思います。

なぜ、いじめられていたり、虐待されている子どもは見つけにくいのか。それは、被害者が自身のことを言おうとしないこと、加害者は巧妙な手段をとっていること、被害を受けた子は、自分が周りから注目されると、また辛い思いをするかもしれないので、自分の存在を消そうとし、誰にも気付かれない、気配を感じさせない子どもであることが多いからです。

子どもの頃に受けたトラウマは、その時の心の傷になるだけでなく、その後の精神的な成長、発達、人格形成にも影響が残ります。人間不信が一生心の中に刻み込まれること、加害者による洗脳

で誰にも言えなくなることが一番恐ろしいです。

皆様には、普段から「いじめ」「虐待」について、子どもの前で話をしていただきたい。子どものしんどいところや、悩みに普段から関心や共感を示していただくことが大事で、「この大人なら聴いてくれる」という態度を普段から示しておいて欲しい。被害者の子どもは、自分が悪いと思いつまされているだけであって、悪くないということを一一般論として話していただくと、子ども達は、打ち明けても良いかなと考える場合が増えるのではないのでしょうか。

子どもが、自分で主張できないときに、それに気付いてあげて、「ここに困っている子どもがいます」ということを、専門機関に繋いで欲しい。

「見逃さない」「見て見ぬふりをしない」心配そうな子がいれば「見守る」。不安はゼロにはならないかもしれないけれど、何とか希望を持って生きていける手助けが、我々にできたらと思っています。



子育て応援ネット活動事例発表

【加東市子育て応援ネット推進連絡会 友藤 富士子】 「地域で子育て支援 ～地域ぐるみで子育て家庭を支援～」

平成の大合併で、加東市になり、「夢が煌めく元気なまち加東」の実現のために、新しい歴史がスタートしました。人口については、毎年増えつつあり、他の市町に自慢できる事です。

私たち加東市女性団体連絡協議会から、加東市子育て応援ネット推進連絡会に改名し、更に多くの団体、幅広い年代のメンバーで活動しています。「子どもの見守り」「声かけ活動」など、メンバーが交代で登下校時に通学路に立ち、子ども達に声かけ、見守り活動を続けております。

「スポーツ大会&昔あそび大会」「地域子ども秋祭り」などのイベントを通して、地域の方々と交流を図るとともに、昔あそびを継承し、地域の子子ども達が心豊かに育ち、郷土に対する愛着を深めるなどの活動をしています。

これからも、青少年健全育成子育て支援活動をして犯罪や非行のない明るい地域づくりを目指して活動して参りたいと思っております。



【淡路市子育てネットワーク推進連絡協議会 立谷 林也】 「いつも笑顔で、身近な存在をめざして！」

男性として、どんな事ができるのか、子育てをしている方と、どう接していくかという課題を以前から持っていました。そこで、子どもが集まって来る所へ顔を出す。また、顔を出した所へ子どもを集める。大人も子どもも地域で「顔をさらす」事が大事なことだと思いました。顔を覚えてもらうと声を掛けてもらえやすくなります。

淡路市子育てネットワーク推進連絡協議会では、子どもを守ろうと色々な情報交換をしています。淡路市では各種団体との連携を強固に進めており、我々は潤滑油になれたらと思っています。そのために一番大事なのが地域で「顔をさらす」ということです。

いじめられている子、いじめている子は家庭の背景をしっかり把握して、関係機関と連携していかなければならない。虐待とかいじめを発見したら、関係機関に繋ぐことが、まず、第一の役割だと思っています。

県下の子育て支援関係の皆さんが、心1つになって、子育ての援助ができていたら良いなと思います。



春眠を覚えず、何度起こしても息子が起きない

阪神北広域救急医療財団理事長・
県立こども病院名誉院長 中村 肇

連載 127 回

ようやく、春の訪れです。「春眠を覚えず（春の眠りは心地よくて夜明けも知らずの意）」、春のぼかぼか陽気は、眠りに誘い込みます。

ところが、現代社会では、夜遅くまで塾通いで、コンビニやスーパー、レンタルショップなどの明るいLEDの照明で、子どもたちの網膜は刺激され、スマートフォンが放つ高輝度な液晶画面の独特の光は、夜間でも脳を覚醒へと導き、子供たちを不眠にしています。

本来眠る時間に強い光の刺激を受けると、眠りをうながすホルモンであるメラトニンが分泌されにくくなり、体内時計が乱れて、寝つきが悪くなったり、日中の不都合な時間帯に眠気が襲ってくるようになるのです。

朝、光を浴びると、脳にある体内時計の針が進み、体内時計がリセットされて活動状態に導かれます。

春は、新しい門出のときです。規則正しい生活リズムで、体内時計をリセットしましょう。